

沖縄のこどもを取り巻く現状・考えられる課題

目次

1. 文献調査の目的	3
2. ヒアリングの目的・内容	4
3. 沖縄のこどもを取り巻く現状・考えられる課題の整理	5
おわりに	8

1. 文献調査の目的

- 沖縄のこどもを取り巻く現状・課題に関する文献調査を行い、主観的要素や教育・医療・福祉等の分野や分野の重なりに注目しつつ、沖縄県の特殊性や課題に対して必要な視点を明らかにすることを目的とする。

➤ 文献調査の手法

- ・ 沖縄県の『こども』に関する計画や会議体（委員会・検討会）、調査報告書、研究論文等の文献より、過去10年以内の文献を目安に計30件レビュー（資料4-2、p.3-4参照）
- ・ 文献の内容から「現状」と「考えられる課題」を抽出・整理し、「考えられる課題」に対して分類を行った（資料4-3参照）
 - 現状：沖縄のこどもを取り巻く現状・問題
 - 考えられる課題：現状とあるべき姿のギャップを解消するために必要な施策・政策
- ・ 分類は、課題の内容による分類、政策分野の分類（教育/保健医療/福祉/産業）、「こどものウェルビーイング測定の概念的フレームワーク（OECD）」のカテゴリの分類の3種類で実施した

2. ヒアリングの目的・内容

- 文献調査より整理した課題のうち、情報が少なかったが重要と考えられる課題について、より詳しい内容を求め、課題の深堀を行うべく、知見を有する方々にヒアリングを実施した。

- 対象者：有識者、自治体・行政の担当者、実際にこどもと接する現場の方 計9名
- 実施期間：2025年8月

➤ ヒアリングの内容(概要)

個別に異なる質問	全員への共通質問
1. スクールソーシャルワーカーの配置推進と活動の効果について 2. 「つまづき」をフォローする支援の現状について 3. 居場所と行政の連携について、その他こどもに近い立場からの視点 4. こどもの身体的・精神的健康やライフステージを通じた支援に関して 5. 小規模離島におけるこどものウェルビーイングに関して 6. こどものウェルビーイングに関するアンケートについて	1. 沖縄のこどもの現状・課題一覧に対するご意見・気づき 2. こどもへの支援を進めるにあたって効果的な方法・判断に迷う点 3. 自身の仕事・業務で役立つ研究 4. 本調査に関するご意見

3. 沖縄のこどもを取り巻く現状・考えられる課題の整理

- 沖縄のこどもの課題は、その内容によって分類すると、「家庭」、「学校・保育所・施設」、「地域社会」、「その他」の4つの大分類と15の小分類となった。
 - こども自身が課題の原因にならない場合、こどもの環境がこどもに影響を及ぼすと思料した
 - 「こどものウェルビーイング測定の概念的フレームワーク(OECD)」では、こどもの環境(レベルC)として、「家庭・家庭環境」、「学校・ECECの環境」、「地域社会・物的環境」と設定されている

➤ 課題の大分類・小分類と考えられる課題(抜粋、資料4-3参照)

※ 課題を分類する場合には、複合的なものも含まれる(例: 家庭環境に起因する学校での課題等)が、ここでは課題の主たる対象を基準に便宜的に分類した。

家庭

- 食事・健康
- 医療アクセス
- 親の困難
(離婚・ストレス・虐待・ネグレクト・経済状況・就労状況・無関心)
- 住居・近隣地域の問題
- 自覚・自己肯定感

- ・ 低所得層に対する食育や運動の推進・支援
- ・ 受診抑制を減らすための医療政策課による計画との整合性や小児科医の確保の充実
- ・ ひとり親家庭や経済的な困窮家庭における親のダブルワーク・トリプルワークの解消方法の必要性
- ・ 家事援助ヘルパーやアウトリーチ型の家庭相談の充実等、低所得世帯が頼れる相手の検討
- ・ 経済状況での格差が生じずコミュニティの活性化にもつながる地域イベントの各地域での開催・参加促進による体験・経験の地域間格差の解消の必要性
- ・ 貧困状態や虐待やヤングケアラーに関するこどもの自覚の必要性についての検討、(親子への)こどもの権利の周知

3. 沖縄のこどもを取り巻く現状・考えられる課題の整理

➤ 課題の大分類・小分類と考えられる課題(抜粋、資料4－3参照)

学校・保育所・施設

- 学力・学習支援・キャリア教育・ライフプラン教育
- 進学・就学支援・就労支援・自立支援
- インクルーシブ(障害・病気・外国人等の受入態勢)
- 保育・教育現場の制度・体制
- 保育士・教職員以外の支援者の制度・体制

- ・ 発達段階に応じた学校等でのキャリア教育や職業観の育成、就労意識の向上に資する方法の検討および実行
- ・ 困難や課題を抱えるこどもの様々な背景・要因が重なり複雑化している場合の専門的なアセスメントやケア・支援、親への包括的な支援
- ・ 進路未決定や中途退学に繋がる複合的な背景をもつ生徒に対する、早期段階での積極的なアウトリーチによる支援の必要性
- ・ 発達障害や発達が気になるこどもに対する発達段階に応じた高い教育・保育を提供できる体制整備
- ・ 教職員の多忙化・過負担による疲弊への対策
- ・ コミュニティソーシャルワーカー、ファミリーサポートセンター等自治体を基盤とした家庭支援の拡充・周知の徹底

地域社会

- 居場所(サードプレイス)(学童・こども食堂等)
- 歴史・文化・価値観(集団意識)
- インターネット・SNS・ゲーム利用

- ・ 居場所を失う可能性のあるこどもへの就学時前からの予防と既に居場所を失い問題が複雑化した中高生へのアプローチの強化に関する方法の必要性
- ・ 親の状況や親の価値観の刷り込み(早婚・若年出産等)に対して物事を適切に判断する力の低学年からの涵養
- ・ こどもの居場所の運営支援の継続・発展等により「体験格差」を埋めるなど低所得層であっても将来の選択肢を狭めない時間の使い方ができる施策の必要性

その他

- 行政手続き・周知
- データ不足

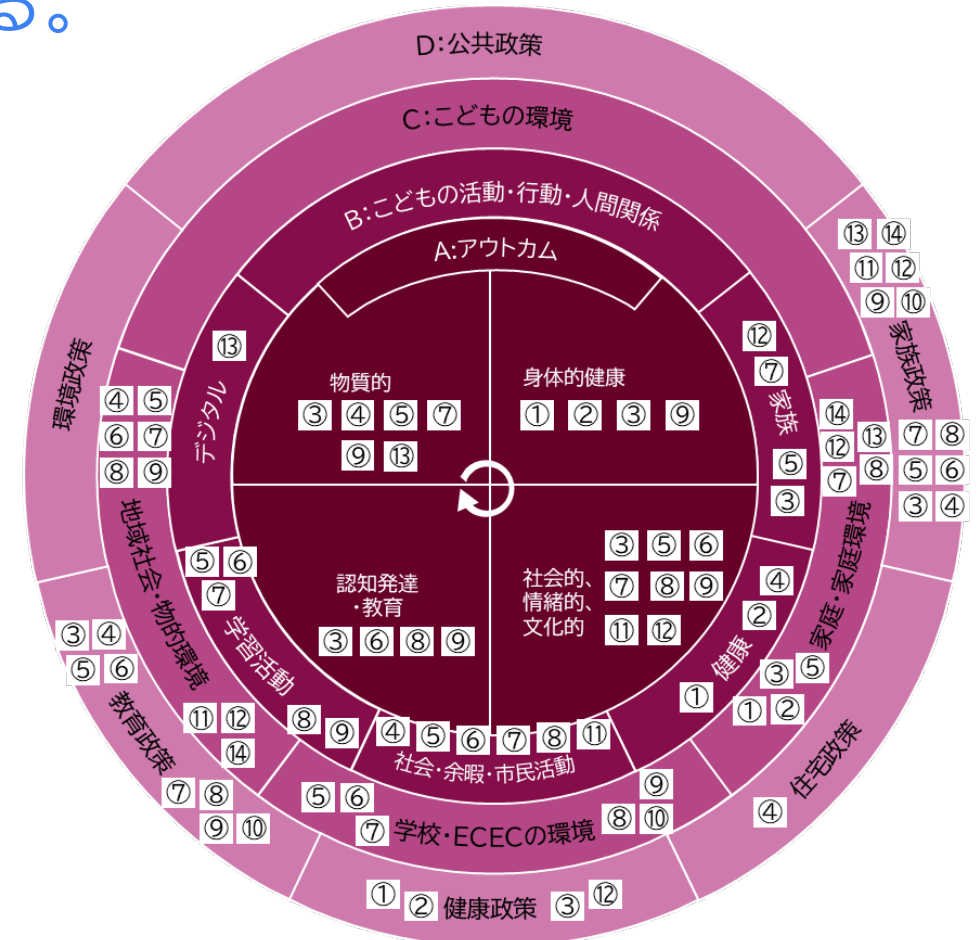
- ・ 生活保護取得基準に関する沖縄県の地理的背景(車の必要性等)を考慮した見直し
- ・ 量的・質的研究における学術的なデータや検討の充足

3. 沖縄のこどもを取り巻く現状・考えられる課題の構造

- こども“自身”のウェルビーイングには、こども本人の状況や周囲の環境、政策等の様々な要素が紐づいている。
 - 沖縄のこどもを取り巻く現状・考えられる課題(p.5-6)を実際に整理すると、各層・各分野に幅広く分布している。こどものウェルビーイング向上のためには、分野横断的な対応や、関係者間での連携が重要である。
- 「こどものウェルビーイング測定の概念的フレームワーク(OECD)」を用いて、15の課題の小分類※をプロットした(右図)。
 - 図の真ん中の「A:アウトカム」に示した4要素がこどものウェルビーイングに直接関係し、さらにそれに関連する要素がB、C、Dである。

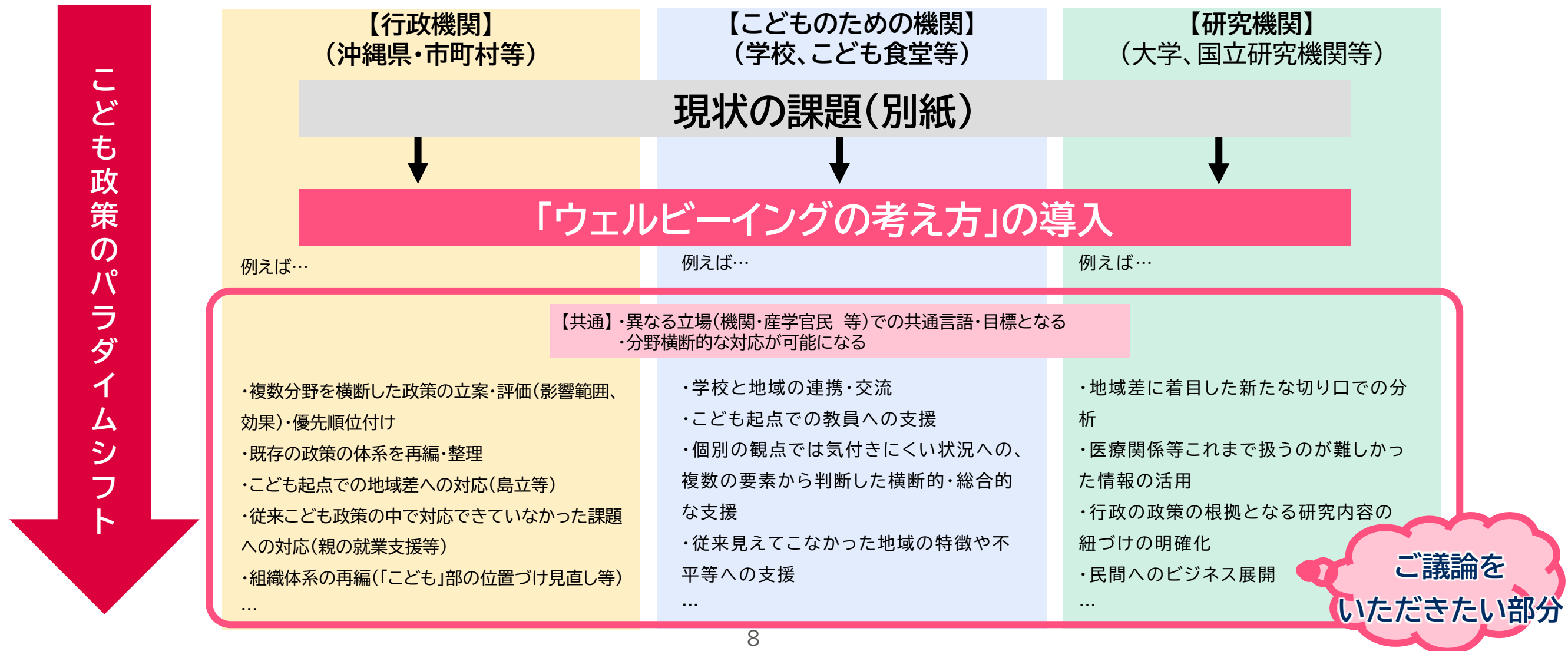
※15の課題の小分類(p.5-6参照)

- ①食事・健康 ②医療アクセス ③親の困難 ④住居・近隣地域の問題
⑤自覚・自己肯定感 ⑥学力・学習支援・キャリア教育・ライフプラン教育
⑦進学・就学支援・就労支援・自立支援 ⑧インクルーシブ
⑨保育・教育現場の制度・体制 ⑩保育士・教職員以外の支援者の制度・体制
⑪居場所(サードプレイス) ⑫歴史・文化・価値観(集団意識)
⑬インターネット・SNS・ゲーム利用 ⑭行政手続き・周知 ⑮その他



おわりに「ウェルビーイングの考え方」を導入することの意義

- 「ウェルビーイングの考え方」によって、沖縄のこどもの課題・要素を分野横断的に整理することで、どのようなことが期待されるかご意見をいただきたい。



未来を問い続け、変革を先駆ける

MRI エム・アール・アイリサーチアソシエイツ